

男の子の初正月 ● 破魔弓飾り

# 破魔の弓矢で邪気を撃ち破る



## 破魔弓飾りの歴史

元は魔や厄災を払い除くと言う神事用の弓です。弓矢は元々武器の一つでしたが、その威力から邪気をはらい悪魔を恐れさせると言う特別な力が備わっていると考えられていました。その為、公式な神事や棟上の式等のお払いの行事にも使われていました。弓矢自体には見えない精霊を退散させる力が有るものと言う意味と、人間には知る事の出来ない方向と距離を判定する占いの用具としての意味も有ります。したがって、神社等では平安時代ころから、魔除けの意味での破魔弓神事や、年占い神事が行われていました。「はま」は弓矢で射的、もしくは射的の射の競技を意味する語で、後に「破魔」の字を当てて、魔を射る矢と解されるようになっていきました。

平安時代の中頃から現在でも、朝廷では皇子が誕生すると「鳴絃」といつて弓の絃を鳴らし、悪魔を払う儀式が行われています。秋篠宮ご夫妻の長男、悠仁（ひさひと）さまのお生まれの時にも、「鳴弦」の儀は執り行われました。民間では、男の子の初正月に、弓を入れる用具「空穂（うつぼ）」と弓矢を組み合わせた破魔弓を飾って祝っていたようです。現在の形になってきたのは鎌倉時代以降と言われ、破魔弓を飾って悪魔を追い払い、家内安全を祈るようになりしました。初正月に男の子をお祝いする風習は各地に元々あり、男児の玩具弓矢と結びつき、男の子の健やかな成長を祈る飾りになっていったようです。





破魔弓飾りは男の子のお守りです。お正月や端午の節句には鎧兜の隣に一緒に並べて飾ります。毎年のお誕生日、七五三や小学校への入学など機会あるごとに飾っていただくとういでしょう。



### 四つ矢飾り

一羽の鷹から水切羽根は四枚しかとれません。羽根の柄は鳥ごとにすべて違うため、四つ矢飾りは矢羽根四本で一組となります。これには四方悪魔払いの意味も含まれています。



### 贈答のしきたり

一般的には赤ちゃんの祖父母や親戚、お仲人が贈ることが多いようです。破魔弓はその子のお守りですから、次男・三男が生まれても一人ひとりに贈り、一緒に飾ってあげましょう。

### 飾る時期

一般的には12月になったら飾り付けをします。また、端午の節句にも一緒に飾っていただくとういでしょう。

### 初正月のお祝いの仕方

お正月に破魔弓を贈って頂いた方々を招いて、おせち料理などでもてなすのも良いでしょう。また、招いた方々にお礼状をお出しする時は、赤ちゃんのスナップ写真を添えると喜ばれます。

